





# インフォメーション・コーナー

## 会 告

- 平成 27 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて  WEB 投稿締切 3 月 31 日……………82
- 平成 27 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について 企画締切 1 月 30 日……………84
- 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い……………85
- 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!……………85
- 平成 28 年の学会誌表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日……………85
- 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！……………86
- 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い……………87
- 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ……………87
- 平成 26 年度京都支部地方講習会・研修会の開催について（第 2 報）  参加申込締切 1 月 30 日……………88
- 第 52 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 2 報）  参加申込締切 1 月 23 日……………89
- 平成 26 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 2 報）  2 月 28 日開催……………89
- 学会記事……………90

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 27 年 1 月 20 日	北海道支部	平成 26 年度支部講習会 	人口減少に立ち向かって、北海道の農村の今後を考える	札幌市	82 巻 12 号
平成 27 年 2 月 6 日	材料施工研究部会	第 52 回シンポジウム 	ため池の耐震性能診断と補強	広島市	82 巻 12 号 83 巻 1 号
平成 27 年 2 月 10 日	京都支部	平成 26 年度地方講習会・研修会 	—	京都市	82 巻 12 号 83 巻 1 号
平成 27 年 2 月 28 日	農業水利研究部会	平成 26 年度研究集会 	農業用水の管理と土地改良区運営	東京都	82 巻 12 号 83 巻 1 号
平成 27 年 9 月 1～4 日	大会運営委員会	平成 27 年度農業農村工学会大会講演会 	—	岡山市	82 巻 12 号 83 巻 1 号

### 第 83 巻第 2 号予定

展望：農業と農村における ICT 活用と地域活性化：大政謙次

小特集：農業農村工学分野における ICT 活用の現状と今後

- ① 農業・農村を変えるフィールドモニタリング技術：溝口 勝ほか
- ② 遠隔監視による濁度・水文観測の課題と今後の活用：久保田富次郎ほか
- ③ 農地流出水のイベントベース画像キャプチャリングの試み：坂西研二ほか
- ④ SNS を活用した集落コミュニティづくりの可能性：衛藤彬史ほか
- ⑤ タブレット PC による映像制作を取り入れたワークショップの試み：鬼塚健一郎ほか
- ⑥ 農業農村工学分野におけるモバイル GIS の開発と利活用：友松貴志ほか

### 技術リポート

- 北海道支部：鶴居第 2 地区の排水路沈砂池による土砂流出対策とその効果：角野 豊ほか  
 東北支部：竹森発電所の小水力発電設備規模決定における検討事例：畠山 順  
 関東支部：塩谷南那須地域の農業水利施設の保全対策の推進について：鈴木 孝  
 京都支部：兵庫県におけるため池・水田を活用した総合治水の取組み：上田健史ほか  
 中国四国支部：セメント系固化材を用いた地盤改良によるため池改修工法の検討：山本大輔  
 九州沖縄支部：ため池堤体亀裂に対する電気探査：高倉義治ほか

小講座：ネットワークセンサ：伊藤良栄

私のビジョン：串田圭司

## 平成 27 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 27 年度農業農村工学会大会講演会は、岡山大学津島キャンパスにおいて平成 27 年 9 月 1 日（火）、2 日（水）、3 日（木）の 3 日間および現地研修会を 4 日（金）に開催します。

この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込み下さい。今回のご案内は、**講演発表の申込み**に関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、**学会誌 4 月号**でお知らせします。

## 1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限り、講演申込み受付の際、会員番号を確認します。この機会に入会される場合は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/guide/nyukai.htm>) の入会手続きをご参照願います。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12 部門あります。ただしプログラム編成上、希望部門が変更される場合があります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1 人（共同研究の場合は代表発表者）1 課題とします。ただし、**企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めず**、1 人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません。
- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んで下さい。①「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、②「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、**プログラム編成上、やむを得ず発表形態が変更される場合があります**。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更可否」で「否」を選んで下さい。プログラムならびに発表形態、ポスターの大きさなどについては、学会ホームページで 6 月末までにお知らせします。
- (6) **講演時間**：①口頭発表は 1 課題 15 分（質疑時間も含む）です。また、企画セッションは 1 セッション 100 分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **要旨集**：(2) にあてはまるすべての原稿を CD 版講演要旨集に集録します。
- (8) **概要集**：WEB 投稿時に入力した講演概要（200 字以内）を、概要集に集録します。200 字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

## 2. 投稿要領

大会講演会の講演申込みは WEB 投稿となります。

URL は <http://www.jsidre.or.jp/outline/zenkokutaikai/> です。

- (1) WEB から新規登録を行い、講演原稿のアップロード、および申込料 2,160 円（税込）の納入をもって申込みとみなします。**振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、所属を記載して下さい**。年会費等をまとめて支払う場合には内訳も記載して下さい。なお、送金後に発表を取り消されても、申込料の返金はいたしません。郵便振替用紙は、本誌巻末に綴じ込んであります。送金済みの振替の控えを PDF 以外の画像データとして、WEB 登録画面から送信して下さい。
- (2) 講演原稿は、図・表・写真などを含め 1 課題 2 ページとします。後述の「**3. 講演原稿の書き方**」に従い、作成して下さい。
- (3) CD-ROM 版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルは PDF 形式でのアップロードとします。
- (4) 講演原稿 PDF ファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名（姓名）として下さい（例：「nougyou tarou.pdf」）。

・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF（アドビシステムズ社：Adobe Acrobat に付属）を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換した PDF（Portable Document Format）ファイルとして下さい。

・ PDF ファイルに、セキュリティ（文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定をしないようにして下さい。

- (5) **受付期間**：平成 27 年 3 月 1 日（日）～31 日（火）  
（遅延不可）

## (6) 問合せ先

（公社）農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて  
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階  
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494  
E-mail：zenkokutaikai@jsidre.or.jp  
郵便振替：00160-8-47993

加入者名：公益社団法人農業農村工学会  
銀行振込：みずほ銀行 新橋支店  
普通預金 1167243

## 3. 講演原稿の書き方

- (1) 用紙サイズは、A4 判（横 210 mm、縦 297 mm）で、マージンは次のようにして下さい（下図参照）。  
上：25mm、下：27mm、左：23mm、右：25mm

(2) 書式

- ① 文字：文字は、10.5ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使い下さい。特殊なフォントは極力使わないで下さい。また、機種依存文字(①, ②, …Ⅰ, Ⅱ, …等)も使わないで下さい。上下左右の margins 内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右の margins 内に必ず収まるようにして下さい。
- ② 題目・所属・氏名・本文：本文原稿の題目は、1ページ目第1行と第2行に中央に寄せ、12~14ポイントで和英併記して下さい。講演者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10~12ポイントで和英併記して下さい。また、連名の場合には代表発表者の前に必ず○印をつけて下さい。

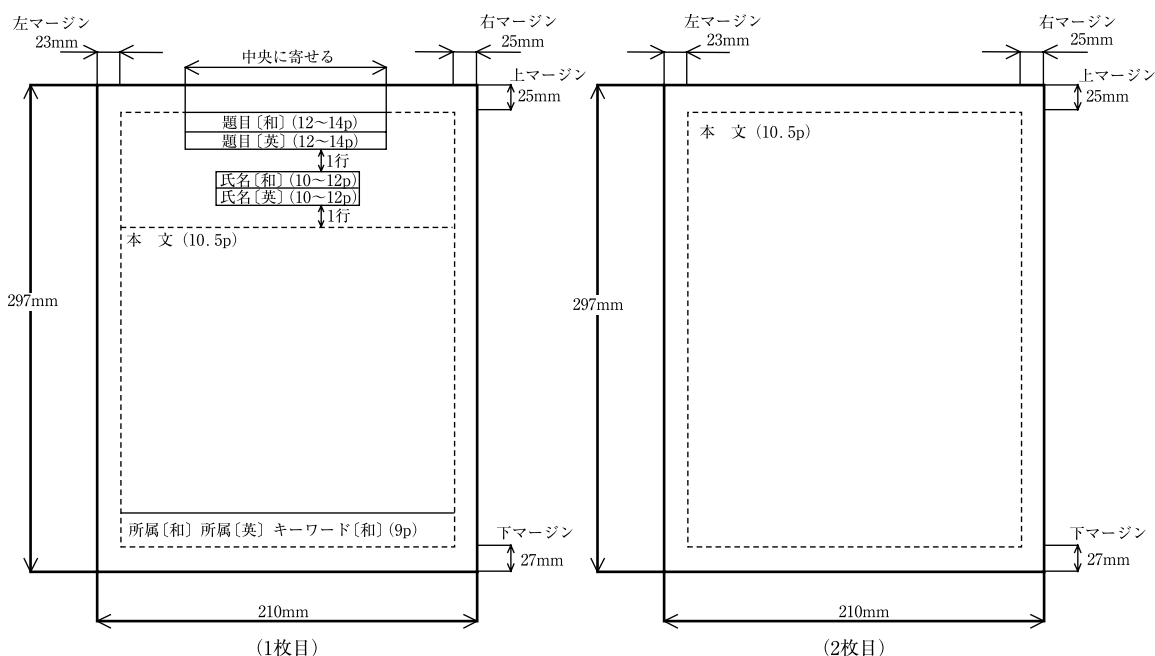
所属は、1ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕(キーワード表参照)を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に\*や\*\*を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は、第7行から書き始めて下さい。2ページ目は第1行から書いて下さい。

- ③ 図・表・写真：本文に貼込み、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。また、図表の表題にも英語を併記して下さい。

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権(著作財産権、コピーライト)は、(公社)農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構(JST)に提供されます。



キーワード表(その1)

1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造

キーワード表 (その2)

5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌漑排水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農村計画	10. 環境保全	11. 生態環境	12. 農業土木教育・農業情報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

## 平成 27 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について

平成 27 年度大会講演会 (9 月 1 日～3 日 (4 日は現地研修会)、岡山大学津島キャンパス) における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は 1 月 30 日 (金) です。お申込みに当たって、下記事項を学会事務局 (zenkokutai@jsdre.or.jp) まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ: 「クローズド・タイプ」または「オープン・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名、所属、連絡先電話・FAX・E-mail
- 4) 企画セッションの概要 (200 字以内)

なお、類似した企画が提案された場合、調整をお願いすることがあります。企画の採否については、研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は、特定のトピックについて、原則 100 分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッションや会場の聴衆を含め

た討論方式等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低 2～3 名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを活用して下さい。

企画セッションでの発表者は、企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めますが、複数の発表は認めませんので各オーガナイザーは発表者選定に当たり、この点に十分留意して下さい。

オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは 100 分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が 100 分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

各企画セッションの申込料は、講演題数にかかわらず一律 12,960 円 (税込) となります。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切

1 月 30 日 (金)

2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡

- 2月13日(金)頃 5. セッションの講演要旨原稿の提出締切 3月31日(火)  
 3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む) 申込み・問合せ先  
 (公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて  
 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3F  
 TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494  
 E-mail: zenkokutaikai@jsidre.or.jp
- 2月16日(月)頃  
 4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
- 2月27日(金)

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行: みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替: 00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24CPDを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

#### 3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例: 学会誌1月号掲載の問題は2月末日が解答期限)

#### 5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2CPDを、7~9問正解で1.5CPDを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。)

#### 6. 自動登録の時期

取得したCPDは、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

### 平成28年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成28年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

#### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の

農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大

切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずだ。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

#### 記

#### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

#### 2. 対象巻号 学会誌第84巻（平成28年1～12月号）

#### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切 秋季～冬季 平成27年3月31日

春季 平成27年6月30日

夏季 平成27年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

#### 6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第84巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成28年度全国大会会場でパネル展示します。

#### 8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

#### 10. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

#### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

#### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

#### 学会誌83巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
83巻	2号 農業農村工学分野におけるICT活用の現状と今後(仮)	公募終了
	3号 河川における環境配慮の技術(仮)	公募終了
	4号 次世代型農業水利システムの姿(仮)	公募終了
	5号 国際土壌年2015特別企画： かけがえのない土壌のために農業農村工学ができること、すべきこと(仮)	公募終了
	6号 大会特集号(中国四国支部)(仮)	公募なし
	7号 日本の技術・知識・経験を世界の現場に生かす(仮)	2月16日
	8号 放射性物質に関する対策や研究の現状(仮)	3月16日
	9号 農業農村整備事業における気候変動への適応(仮)	4月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
 公益社団法人 農業農村工学会  
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
 TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494  
 E-mail: henshu@jsidre.or.jp

### 83巻7号テーマ「日本の技術・知識・経験を世界の現場に生かす」(仮)

2000年の国連ミレニアムサミット以来、世界の開発目標となってきた「ミレニアム開発目標」は、目標達成年である2015年を迎えました。2015年9月には次の開発目標である「ポスト2015開発アジェンダ」が採択される予定であり、その内容について議論が続けられています。過去15年で飢餓人口は半減したとされるものの、食料・農業分野は引き続き重視される課題です。また、自然災害への対応も課題の中に組み入れられる見込みです。

わが国には長い歴史の中で培ってきた水利、基盤整備、防災などの技術があります。それらの優れた技術は、資金協力や技

術協力などとおして提供され高い評価を受けており、わが国には今後も引き続き貢献が期待されています。しかしながら、日本で生まれた技術がすべて諸外国でそのまま受け入れられ、活用されるわけではありません。日本で各種技術が成立した背景があるように、受入れ国にも独自の自然・社会・歴史的な背景があり、それらを理解し、工夫することが必要と考えられます。学会誌83巻7号では、「日本の技術・知識・経験を世界の現場に生かす」を特集します。海外に普及すべき日本の技術とその特徴・成立要件や、実際に海外の現場に導入・普及する際の工夫などについて、報文を広く募集します。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.247と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回

購読料: 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015年1月から2017年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2014年10月に Vol.12, No.4 が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.247 と高い評価を得ております。

また、世界14カ国から Editor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2015年1月から2017年12月までの編集事務局は韓国です。  
**投稿先**：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

**編集事務局**：Professor Dr. Jin-Yong CHOI

Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology  
 Rural Water and Information Engineering Lab.  
 Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University  
 1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742  
 TEL : + 82.2.880.4583 FAX : + 82.2.873.2087  
 E-mail : iamchoi@snu.ac.kr

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制**

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)  
 Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ **Editors** 14 カ国から 23 名
- ・ **Editing Board** 26 名

・ **Chief Management Editors**

**Dr. Jin-Yong CHOI**

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

**Dr. Yoshiyuki SHINOBI**

The Graduate School of Bioresource and Environmental Sciences, Kyushu University, Japan

・ **Managing Editors**

**Dr. Haruhiko HORINO**

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

**Dr. Kazunari FUKUMURA**

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

**Dr. Yu-Pin LIN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Ming-Daw SU**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**出版社**：Springer-Japan 社

**投稿資格**：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

**投稿要領等**：<http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

## 平成 26 年度京都支部地方講習会・研修会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 26 年度農業農村工学会京都支部地方講習会・研修会を下記のとおり開催します。

1. **日 時** 平成 27 年 2 月 10 日 (火)  
 10 : 30 ~ 受付  
 11 : 00 ~ 12 : 00 地方講習会  
 13 : 00 ~ 17 : 00 支部研修会
2. **会 場** ホテル ルビノ京都堀川 2F 「みやこ」  
 〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町  
 TEL : 075-432-6161 FAX : 075-432-6160  
<http://www.rubino.gr.jp/>

### 3. 参加申込方法

#### (1) 参加申込み

参加申込みは、農業農村工学会ホームページ内の京都支部地方講習会・研修会参加申込みについて (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>) にアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。

参加申込書は所属ごとに取りまとめ、E-mail, FAX または郵送で下記 4. の事務局へお申し込み下さい。

#### (2) 参加申込期限 平成 27 年 1 月 30 日 (金)

- (3) **参加費** 地方講習会・研修会 会 員 : 2,000 円  
 非会員 : 2,500 円

#### (4) 参加費の納入方法

銀行振込みか当日払いとなります。

どちらで納入するか、参加申込書へご記入願います。

#### (5) 参加費の振込先

銀行名：京都銀行

店 名：102

口座番号：3184760

名義人：農業農村工学会京都支部代表者竹村英典

(ノウギヨウノウソソコウガツカイキヨウトシ  
 ブダイヒヨウシヤタケムラヒデノリ)

※ 振込手数料は、各自にてご負担願います。また、振込元を確認するため、所属、氏名などをご記入下さい。

なお、振込み後は参加費の返還には応じられませんのでご了承下さい。

### 4. 参加申込先・問合せ先

農業農村工学会京都支部近畿事務局

(近畿農政局整備部設計課内) 三好, 竹村



〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下ル丁子風呂町  
TEL : 075-451-9161 FAX : 075-417-2090

E-mail : takayuki\_miyoshi@kinki.maff.go.jp  
hidenori\_takemura@kinki.maff.go.jp

## 第 52 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テー マ ため池の耐震性能診断と補強
3. 期 日 平成 27 年 2 月 6 日 (金) 茨城大学 毛利栄征
4. 会 場 広島県土地改良会館  
〒730-0017 広島市中区鉄砲町 4-1  
http://www.hdn.or.jp/main.htm  
※駐車場がございませんので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
5. プログラム  
10:00~10:05 開会式  
10:05~12:35 講演発表 1<一般講演>  
(1) 広島県におけるため池耐震診断の実施と評価について  
広島県農林水産局農業基盤課 佐々木拓治  
(2) 山口県におけるため池耐震性能診断の取組について  
山口県農林水産部農村整備課 林 貴史  
(3) 愛媛県のため池の現状と地震対策等について  
愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課 向井 務  
(4) 兵庫県のため池耐震調査と整備について  
兵庫県農政環境部農林水産局農村環境室 野村純数  
(5) ため池堤体の地震時変形挙動解析事例について  
香川大学工学部 山中 稔  
12:35~13:30 (昼食)  
13:30~13:45 材料施工研究部会研究奨励賞授与式
- 13:45~14:45 講演発表 2<基調講演>  
ため池の地震被害に対応する耐震診断の考え方 (仮)
- 14:55~15:55 パネルディスカッション
- 15:55~16:00 閉会式
6. 参加費 4,000 円
7. 申込み  
以下の項目をご記入の上、FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。その際、タイトル欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。  
①参加者氏名、②所属機関名、③所在地、④ TEL、FAX、E-mail アドレス、⑤弁当 (代金¥1,000) 予約注文希望の有・無、⑥ CPD 番号 (登録希望の方)
8. 申込先  
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1  
岡山大学環境理工学部環境管理工学科  
材料施工研究部会事務局  
申込受付担当: 柴田俊文  
TEL : 086-251-8154 FAX : 086-251-8881  
E-mail : tshibata@cc.okayama-u.ac.jp
9. 申込締切 平成 27 年 1 月 23 日 (金)
10. 宿 泊 各自で手配して下さいますようお願いいたします。
11. 問合せ先 申込先と同じです。

## 平成 26 年度農業水利研究部会研究集会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



近年の農業を巡る国内外の情勢や気候変動などの影響を受けて、圃場の大区画化による生産コストの縮減や農地の集積、高品質な農産物の生産のための水管理技術の構築などが課題となる一方、米価の低落による農家の生産意欲の減少ならびに賦課金の負担についての問題が懸念されています。このような情勢にかんがみ、当部会では、農業用水の利用変動に応じた水管理のあり方や土地改良区の運営と賦課金対策について焦点を当て研究集会を開催し検討することにしましたので、ここにご案内いたします。なお、参加はどなたでも自由です。

1. 期 日 平成 27 年 2 月 28 日 (土) 13:00~17:00
2. 場 所 航空会館 504 会議室  
東京都港区新橋 1-18-1  
TEL : 03-3501-1272  
交通機関: JR 新橋駅日比谷口・地下鉄東京メトロ銀座線・都営浅草線⑦出口より徒歩 6 分、地下鉄都営三田線内幸町駅 A2 出口より徒歩 1 分

3. テー マ 農業用水の管理と土地改良区運営
4. 講演者および題目  
「農業用水を巡る最近の動向」  
農林水産省農村振興局水資源課課長補佐 西原正彦  
「農業用水の利用変動に応じた農業水利権の運用と水管理」  
水土里ネット最上川理事長 田澤伸一  
「土地改良区の運営と賦課金対策」  
東京農業大学客員教授 元杉昭男
5. 参加費 500 円
6. 参加申込みおよび問合せ先  
農業水利研究部会事務局  
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1  
東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科  
地域資源利用工学研究室内 (担当: 中村好男)  
TEL : 03-5477-2337 FAX : 03-5477-2620  
E-mail : nyoshi@nodai.ac.jp